

令和5年度

やまじ

第60号



山梨県保育協議会ではホームページに情報をアップしています。

◎県保育協議会ホームページを活用しましょう！

皆様の声を反映して作っていきたいと考えております。コロナ禍でインターネットでの情報の発信、共有、活用が進んでいます。この機会に、皆様もアクセスしてみてください。ご協力お願いいたします。

<http://www.yamanashi-hokyou.jp/>

右の二次元コードからもアクセスできます。



山梨県保育協議会

- 発行所 山梨県保育協議会
甲府市北新1-2-12
☎(055)254-8610
- 発行責任者 小尾 美香
- 編集者 山梨県保育協議会 保育部会
- 印刷所 有限会社東和プリント社
- 発行 令和6年2月

園の幼児教育・保育と子育て支援を見直す機会としよう

山梨県保育協議会 会長 廣瀬 集 一

こども家庭庁が本年4月より内閣府の外局とし、子育て政策を一元的に企画・立案・総合調整するために設置されました。6月に発表された「こども未来戦略方針」による異次元の少子化対策「こどもまんなか宣言」の社会を実現するためには、新たな特別会計(こども金庫)が創設できるかにかかっています。こども家庭庁の2024年度予算要求で保育関連は2兆4504億円。保育士配置基準の改善、こども誰でも通園制度、空き定員を活用した定期的預かりモデル、現場のICT(情報通信技術)、潜在保育士の復帰支援、保育補助者の活用、地域限定保育士制度の全国展開、医療的ケア児保育支援事業の拡充など様々な施策が予定されています。

山梨県は6月全国都道府県で初めてとなる「人口減少危機突破宣言」を打ち出しました。また、山梨県幼児教育センターでは幼児教育アドバイザーを設置し、研修は分野別を意識し保育所、幼稚園、認定こども園が共に認定に係る体系化をすすめています。今年度は園内リーダー育成研修の仕組みづくりを行い、園を中核的に担っていく保育者を育成していきます。

7月には、県立こころの発達総合支援センター元所長本田秀夫教授が山梨県と長野県内の保育施設に通う子ども10,354人のうち1,731人(16.7%)に発達上の懸念があると調査結果を発表し、担任が保護者より早く発達上の問題に気づくことが多い実態を浮き彫りにしました。障害児保育事業予算は市町村の地方交付税に算入されていて、障害の程度に関わらず障害児と保育士2:1と拡充されていますが、多くの市町村はその対応が出来ず、実施実現のための要望書を提出してきました。今後は甲府市以外の他市町村でも実現するよう活動を進めてまいります。

出会いと学び多き1年

山梨県保育協議会保育部会長 小尾 美 香

今年度、県の保育部会長という大役を受けさせて頂き、県を飛びだし全国の会議や研修に参加させて頂きました。

過去三年間はコロナ禍で思うように活動ができなかった保育士会ですが5月に5類感染症に位置付けられたことで、対面での活動が可能になり、以前のように他地区の先生方と会う機会も増えてきました。一方、子どもを預かる施設では、全部を元通りに戻すには、不安もありました。コロナ感染症が消滅したわけではないので、様々な面での配慮が必要です。コロナ感染症を経験したことで行事や生活の見直しもできたという声は、県内様々な園から聞かれます。また当たり前のことへの有難みを改めて感じる事ができ、保育の振り返りにも繋がっていると感じました。

その渦中、不適切な保育が取り上げられ、不安が募り、自信がなくなり、保育士のモチベーションが下がっています。しかし、私たち保育士は高度の専門職です。一人一人の子どもの育ちの理解、発達の連続性、子どもの思い、保育士の願い、瞬時の判断力、地域性を考慮した保育展開・・・子ども達はもちろん職員ともしっかり対話を行い、子どもも保育士も保育が楽しくなるような振り返りをしていくことが更なる専門性の構築に繋がっていくと思います。このように、振り返りの大切さや保育士の重要性を改めて感じられたのもこの役を通じ、多くの保育関係の方と繋がりを持ち、様々な保育現場の声を聞き、多くの研修に参加させて頂いたからだと思います。学び多き一年となりました。所属保育所の所長先生をはじめ職員の皆様のご理解を頂き、前部会長の高橋先生をはじめ、事務局、役員の方、先生方、様々な方に助けて頂きました。本当に感謝しております。この役をさせて頂いたことは私にとっての財産となりました。本当にありがとうございました。

特別寄稿

国際保育の実現に向けて

山梨県子育て支援局子育て政策課長 山本英治

保育士や保育教諭の皆様におかれましては、日頃より子どもの豊かな成長のため、保護者や地域の子育て家庭のために御尽力いただき、心から感謝申し上げます。

さて、本県の人口は、平成12年9月の約89万人をピークに減少を続け、今年の2月には約43年ぶりに80万人を割り込みました。

こうした状況を受けて県では、人口減少に歯止めをかけ回復局面に転じさせるため、抜本的かつ集中的に取り組んでいくこととし、さまざまな施策を組み合わせ、総合的に対策を進めるべく「人口減少危機対策パッケージ（暫定プラン）」を取りまとめました。

パッケージの中にあります、「国際保育の実現に向けての取り組み」は、本年の9月議会で議決された、山梨県初の施策になります。

この施策は、保育現場の先生方へのアンケート結果を基に、保育関係団体、幼稚園関係団体、保育士養成校、その他関係機関の委員で構成された山梨県保育等人材確保・定着等協議会において検討を行い、実現した施策です。

実施にあたっては、乳幼児期から国籍や民族等の違いに触れ、互いに尊重する心を育てていくことが重要であることから、保育所等における保育士の多文化共生への理解促進、保育士等多文化共生ネットワークの構築、通訳等の派遣により国際保育の推進に取り組んでいます。

県では、国際保育の実現に向けて、保育士、保育教諭の皆様と一緒に取り組んで参りたいと考えておりますので、引き続き研修への参加等について御支援と御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

「子どものパワー」

山梨県保育所保護者連合会会長 清水麻美

「わあ～はっばがあかいね」「おそとほいいにおいがするね」子ども達の言葉にハッとさせられる時があります。少しずつ寒くなってきたとは感じていても日々の生活に追われ、小さな変化に気づけなくなっていました。子ども達が季節の変化や、日頃のちょっとした変化にも気づける事に成長を感じ嬉しく思った日でした。同時に、私は毎日の生活の中で子ども達に笑顔向けられていないのではないかと気づかされました。我が家では、春から生活スタイルの変化がありました。しかし、新たな生活に不安や戸惑いがある中で子ども達の存在に最近では頼もしさを感じています。子ども達の何気ない言葉ですが、今の私には頼もしく気持ちがあたたかくなりました。いつまでも小さく、大人のサポートが必要と感じていた子ども達に、疲れて笑顔のなくなった私の方がサポートしてもらっていたのです。

そんな中、今回の山梨県保育所保護者連合会会長の役を頂き、保育に関係する皆さんの活動内容に、今まで以上に目を向けさせていただく事で多くの発見がありました。保育士の皆さんの知識や経験によって、コロナという大変な状況のなかでも子ども達の安全を考えて下さりながら、子ども達がさまざまな経験を積み重ね、社会性やコミュニケーション能力を養っていけるようサポートして下さいているのだと感じました。我が子のちょっとした一言も日頃の保育所生活の中でも感じる力や、相手を思いやる気持ちを育てて下さったからだと思います。そんな子ども達のパワーを引き出してくださる保育関係の皆さんに感謝し、私も協力していければと思います。今後ともよろしくお願ひ致します。

甲 府 市

保育士としての思い

二川保育園 江上美佐

新型コロナウイルスによって、あたりまえに経験してきたことが制限されてきました。子どもたちの学びの機会が失われ、何とかそれに代わることを園全体で考えて取り組んできたコロナ禍。でも、子どもたちは制限されている環境の中でも、自らも「楽しいこと」を見つけてあそび、探求し、視野を広げるなど、子どもたちのたくましさを感じました。

5月より制限が緩み、これからは更に、やりたいことを実現できるよう、あそびこむことを大切にしたい保育、もっとワクワクできる環境作りに努めていきたいと思えます。そのためにも、環境を整えたり、一人ひとりに丁寧にかかわり寄り添える保育ができるよう、配置基準の見直しを早急にして頂けるよう切に願います。保育の仕事を「子どもの命と育ちを預かる専門職」として、社会全体が捉えているなかで、保育士は皆、社会や保護者が保育園に望んでいることは、保育士もしてあげたいと思ひ、保育にあたっています。しかし、子どもたちの笑顔だけでは頑張り切れず、保育士が疲弊する前に手を差し伸べてほしいと思ひます。

私たち現場の職員も、保育実習生に幼児教育・保育にかかわる素晴らしさや魅力を伝えたり、この仕事を長く勤めていけるよう、先輩保育士として新任保育士のフォローやコミュニケーションをしっかり取り、保育士不足解消の一助となれるよう努めていきたいと思ひます。

中 巨 摩

私たちの未来を育む

吉沢立正保育園 高橋栄斉

- ① 全てのこどもについて、個人として尊重されること・基本的人権が保障されること・差別的取扱いを受けないようにすること
- ② 全てのこどもについて、適切に養育されること・生活を保障されること・愛され保護されること等の福祉に係る権利が等しく保護されるとともに、教育基本法にのっとり教育を受ける機会が等しく与えられること
- ③ 全てのこどもについて、年齢及び発達に応じて、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会・多様な社会的活動に参画する機会が保障されること
- ④ 全てのこどもについて、年齢及び発達に応じて、意見の尊重、最善の利益が優先して考慮されること
- ⑤ こどもの養育は家庭を基本として行われ、父母その他の保護者が第一義的責任を有するとの認識の下、十分な養育の支援・家庭での養育が困難なこどもの養育環境の確保
- ⑥ 家庭や子育てに夢を持ち、子育てに伴う喜びを実感できる社会環境の整備

これは「こども基本法」の基本理念です。こどもの育ちに関わる全ての保護者、保育者は、この基本理念をしっかり心に刻み、自覚をもってお互いに協力し合い、私たちの未来である子どもたちを育まなくてはなりません。



南アルプス市

「大切にしていること」

南アルプス市立百田保育所 小林 綺 夏

私は保育士として働き始め、6年目を迎えようとしている。幼い頃から保育士になる事が夢だった。母の勧めで、5歳からピアノを始めた。何年経っても私の夢は曲がることなかった。私が興味を持ったことをいつも応援してくれた母。海外の保育を知りたい、海外ボランティアへ行くなどと無謀なことを言ったこともあった。どんなことでも背中を押してくれたので、自分自身の視野を広げることができた。しかし、大学生の時、母とは永遠のお別れをしてしまった。そんな経験から、生きてく上で、保育士として大切にしていることがある。

それは「当たり前はない」ことだ。こうして生きていること。様々なことが出来る、出来ないに当たり前はないと考えている。個々に応じて手助けをしていき、成長を促していけるようにしている。保護者や子ども、職員と気持ちが通じ合った時や努力が実った時には、大きなやりがいを感じる。保育士の仕事に誇りを持ち、自分の母のように子ども達の成長を見守りながら、挑戦する気持ちを応援していきたい。

世間では不適切保育、虐待などと保育に関わる悲しい報道が絶えない。子ども一人一人の育ちを大切にしながら、保育できるように心掛け保育士として働き続けたいと思う。

山 梨 市

保育士部会の活動を通して

加納岩保育園 遠藤 順子

山梨市保育士部会は、会員109名で構成されています。今年度は、規模を縮小した形ではありましたが定期総会を開催し、承認された事業計画に基づき活動を進めてきました。

1. 保育士部会研修会

山梨厚生病院小児科医師、池田久剛先生をお招きして、保育園における感染症対策についてお話を頂きました。様々な感染症についてお話を聞く中で手洗いの重要性を改めて感じました。これからも対策を日々の保育で取り組んでいきたいと思いました。

2. 保育協議会三部会合同研修会

園長・保育士・調理士部会合同で童謡歌手・ピアノ演奏者をお招きしてコンサートを開催しました。家族も参加し素敵なひと時を過ごしました。

3. 保育内容研究委員会

昨年度から関東ブロック保育研究大会に向けて研究を重ねています。地域の子育て支援について引き続き研究を進めていきます。

以上が今年度の活動報告です。この一年間貴重な経験や勉強をさせて頂きました。子育て支援課をはじめ、各保育園・認定子ども園の園長先生方、会員の皆様のご指導とご協力によるものと心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

笛 吹 市

「繋がり大切に」

都保育園 梅 沢 千恵子

笛吹市は、今年度6月に北杜市ぐうたら村の写真家、小西貴士さんを講師にお招きし、「保育と自然のイイ関係」というテーマで保育士研修会を開催しました。「生きる力」だけでなく、「生かされていることに気付く力」に大きく心を動かされ、自然との繋がりから人との繋がり大切さに気付かされました。

私たちは生まれてきてから沢山のひとと関わり、沢山のことを得て今日を迎えています。私も周りの方に支えられていること、自園の子どもたちとの毎日は、発見や感動が沢山あって笑い合える環境に感謝しています。

また、繋がり大切にしたいと思い、笛吹市主任視察研修は「ぐうたら村」へ伺うことにしました。ぐうたら村の大自然を肌で感じながら、わたしたちが生まれてきた世界がこんな風にできているということに、からだを通して気付き、他園の先生方と語り合う時間の大切さを改めて感じました。

これから繋がる新たな出会いにもワクワクしながら、子どもたちが毎日を笑顔で過ごせる環境づくりや、保護者の方や職員に寄り添い感情を共有しながら、人と人とを繋げられる存在になれるよう、耳を傾けながら保育の現場に関わっていこうと思います。

.....

峡 南

「育つ」って楽しい♪赤ちゃんの毎日

富士川町立中央保育所 中 込 未菜美

春。初めての0歳児担任。可愛い可愛い赤ちゃんとの日々が始まった。

新年度が始まり、ゆったりと過ごす保育所生活の中で、少しずつ新しい環境に慣れ、安心して心地よく過ごしてほしいとの思いで、抱っこしたりふれあい遊びを楽しんだり、スキンシップを大切に、信頼関係を築いていった。

夏。一人ひとりが発する要求や気持ちをくみとり、言葉を添えて応えていくことを繰り返し、大好きな大人との関わりの中で安心して過ごせるという信頼関係が、色んなひととの関わりへと世界を広げていった。

秋。身体の動きが活発になり、行動範囲が増えたことで、友達に近寄ったり、いないいないばあ遊びなど友達との関わりを楽しむ場面が見られるようになってきた。”楽しい”という思いを大人や友達と一緒にたっぷり味わい共感することを重ね、ひとりの世界から、人と繋がることの楽しさへとぐんと世界が広がった。

さあ、0歳児ラストスパートの冬。どんな姿を見せてくれるのか。小さい身体の大きな一歩の成長を日々見守り、子どもたちの「育ちたい」という思いに私たち保育士は応えていきたい。



.....

葦 崎 市

葦崎市保育所連合会の活動について

葦崎市立すずらん保育園 清 水 優 子

葦崎市保育所連合会は、公立保育園三園、会員56名で構成されています。四月の定期総会の際に承認された執行部員を中心に事業計画に基づき、各園の意見を集約し評議員会で協議、検討して活動し

た内容は次の通りです。

講演会は「マジックと音楽と絵本のセミナー ～子どもの世界を彩る3つの魔法～」と題して、大友剛先生の貴重なご講演をいただきました。

講習会は蕨崎市消防署職員のご指導の下で救急救命講習を実施しました。小児の心肺蘇生法やAEDの操作方法などを学びました。また10月には「ハーバリウム」をテーマに野島丈予先生にご指導いただきながら会員の交流や心身のリフレッシュを行いました。

研究会では保育園ごとに研究テーマを決めて取り組み、研究内容を発表しました。園内研究を通じて、一人ひとりの意識の向上や自己研鑽に繋がりました。

私自身も多くの先生方との出会いを通して、沢山の勉強をさせていただきました。偏に市のこども子育て課の方々をはじめ、園長先生、会員の皆様のご指導とご協力によるものと心より感謝申し上げます。

.....

北 杜 市

森のほいくえんの豊かさ

清里聖ヨハネ保育園 鈴木 希

北杜市にある清里聖ヨハネ保育園は、自然豊かな森に抱かれています。子どもたちと晴れでも、雨でも、雪でも、森へ出かける毎日を過ごしています。

ある秋の日、木の実がたくさん実る道を散歩しました。どんぐり、アケビ、サルナシ、赤い実。ちいさな一粒一粒に、目をとめて進みます。特にどんぐりは大人気です。帽子やカゴに、「これでもか！」と大量に集める子どもたち。ふと、そんなに集めてどうするのか考えた年長児がいました。「…りすさんの分がなくなっちゃうね。僕、半分は森に置いていこうかな。」と、私に話してくれました。この森には、たくさん命があることを良く知っていて、相手を思いやる気持ちからの言葉。あたたかいなあと思いました。「冬に寝るとき（冬眠するとき）、おなか空かないといいね。」そう呟きながら、森にどんぐりを置いていました。

森での出来事を自分事として考え、共に生きていく姿は、あたたかいです。森の保育は、恩恵や思いやりに溢れています。日々の営みと、子どもたちの柔らかい心をこれからも大切にしていきたいです。

.....

富士吉田市

「関東ブロック保育研究大会に参加して」

富士吉田市立第六保育園 秋山 成美

第63回関東ブロック保育研究大会に参加させていただきました。令和2年度に始まった研究を受け継ぎ、令和3年度から2年間、ふれあい遊び（タッチ）を保育に取り入れ、『予測困難な時代を乗り越えるために～心の根っこにここふじたち～』というテーマのもと研究をしてきました。

研究期間は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として様々な行動に制限がありました。あえてその期間だったからこそ、タッチが子どもたちにとって大切なものであったと実感しました。月に一度の研究委員会で話し合う中で、タッチを喜ぶ子どもたちの姿がたくさんありました。私自身も子どもたちにタッチをしていく中で、タッチの効果を感じました。慌ただしく過ぎていく保育の中で一人の子とじっくり関われる時間です。気持ちよさそうに脱力したり、くすぐったい時には体が動いたり、「次はここでしょ？」と言うように姿勢を変えたり。一曲の中で体をタッチしながら、そこに会話はなくても一緒に温かい時間を共有している心地良さがありました。忙しいからこそ、ホッと出来るひとときを。「楽しい」「安心」を感じられるように、これからも子どもたちとの生活を作っていきたいと思います。

南 都 留

変わりゆく環境の中で感じたこと

富士河口湖町立河口保育所 高尾 貴子

コロナ感染症が五類になり、感染対策を続けながらも、元の生活に戻った事や見直した事など様々ですが、子どもたちは目まぐるしく変化する環境の中でも変わらず元気いっぱい笑顔いっぱいに園生活を過ごしています。

今年度、私は個性豊かな年長児の担任をしています。考えてみると、この子たちは、園生活の半分以上がコロナ禍で、活動の制限がある中、過ごす事も多くありました。しかし、今年度からは、できる活動も増え、親子での行事、地域の人たちや小学校との交流もできるようになりました。このように、多くの経験ができる事は、子どもの成長にもつながり、保育士はもちろんですが、保護者からも喜びの声が聞かれ、嬉しく感じました。

私自身、コロナ禍で保育をしてきて、制限がなくなった現在「こんな活動もやっていたな」「この活動はやっても平気だな」と忘れかけていた以前の日常生活を思い返す良いきっかけにもなりました。

コロナを通じ、変わったもの・変わらないものと様々ですが、子どもたちの気持ちに寄り添いながら、これからも日々楽しく笑顔あふれる保育を心がけていきたいと思えます。



令和5年度 山梨県保育協議会保育部会役員

- | | | |
|--------|-------------------|---------|
| ● 部会長 | 南アルプス市立南湖保育所 | 小 尾 美 香 |
| ● 副部会長 | 二川保育園 | 江 上 美 佐 |
| | 山梨市立八日市場保育園 | 飯 島 久美子 |
| | 身延町立原保育所 | 望 月 優 子 |
| | 富士吉田市立第六保育園 | 加賀美 祥 子 |
| ● 幹 事 | 吉沢立正保育園 | 三 井 栄 美 |
| | 南アルプス市立落合保育所 | 保 坂 えりか |
| | 都保育園 | 梅 沢 千恵子 |
| | 韮崎市立すずらん保育園 | 清 水 優 子 |
| | 北杜市立しらかば保育園 さくら分園 | 向 井 知 美 |
| | 富士河口湖町立こもも保育所 | 外 川 陽 子 |